

# 感動一点の場

『ななかまど』  
1999年 小川原 脩 画

ほっとする温かな空気に包まれて立つ、ふんわりとした形のななかまどの木。数本の幹が寄り添い合って1本になっています。たわわに実がなっているのでしょうか、ふさふさと茂る葉の緑や黄緑の中には赤い色彩があちらこちらに混じり合っています。また、ハトのような、ふっくらとした鳥のシルエットも見つけることができます。

小川原脩が最晩年に手掛けた油彩画である「ななかまど」のシリーズは、1998年の個展でも発表していますが、最後まで描き続けたこの一点は未完成となってしまいました。けれども、優しく束ねるように塗り重ねられた色のまとまりからは、どこか温かみのある「ななかまどの木」であることが不思議と伝わってくるのです。美術館には、この絵を描いたときに使った絵の具がそのまま残るパレットがあります。筆が画布を走る音だけが響き、淡々と絵の具を重ねてゆく、老画家の穏やかなアトリエが目に浮かぶようです。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



# ふるさと探訪

464回

## 家から消えた調理器具 —こね鉢—

「むかしの人は何を食べていたんですか？」風土館に来る小学生からよく質問されます。俱知安町史（昭和36年版）に、俱知安開拓のころ、一軒で収穫された作物として、コキビ3俵、イモ12俵、アワ3斗、ソバ1石8斗、白小豆3斗、小豆3斗5升、ウズラ豆1石、トウキビ2斗と書かれています。イモ12俵は約700kg、ソバは約330kgになります。稲を植えたという記録はありますが米は採れませんでした。大きな団体入植者などの、一部の恵まれた人たちは米や麦の援助がありましたが、ほとんどの開拓者は本州から運ばれてくる高価な米を食べることができず、ゆでたイモやトウキビカユ、ソバダングを日常の食事としていました。ほかには、フキ、ウド、ワラビ、行者ニンニクなどの山菜や野草、尻別川で捕れる川魚で、マス、サケ、ヤマベ、イトウ、ウグイ、ドジョウなどはたくさん捕れたそうです。

イモやトウキビ、ソバの団子は日常に限らず、年中行事や来客のあった時に出す食べ物でもあったので、団子をこねるためのこね鉢はこの家庭にも必要な調理器具の一つでした。こね鉢は木をくりぬいて作る大きな鉢で、ほとんどは自家製だったようです。家でそばやうどんを作ることがなくなった現在、「家でこね鉢を使っている」という方は、はたしてどれほどいるでしょう。



文：森脇 友行（俱知安風土館 学芸補助職員）

▲こね鉢

## 展覧会のお知らせ

### ■第1展示室

第63回「麓彩会展」

今年で63回目を迎えた麓彩会展。地域にゆかりが深い作家、この地域に根差した創作活動を展開する作家の最近の作品など、さらなる広がりをもせる地域の多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～令和4年1月16日(日)

### ■第2展示室

小川原脩・谷ロー芳 二人展「仲間たちへのオマージュ」

谷ロー芳（1919-2013）は鼻を題材に深奥幽玄の世界を追求した画家です。麓彩会展にも第9回展（1967）より参加し、この俱知安の地で小川原脩との交流を深めました。それぞれに動物たちへ想いを託した二人の、力強い作品の共演をご覧ください。

会期：開催中～令和4年2月13日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■ミュージアム・コンサート

岡本孝慈・恵里 サロンコンサート

日時：12月11日(土)14時～15時 会場：当館ロビー（無料）

出演：岡本孝慈さん（ピアノ）・岡本恵里さん（ピアノ）

定員：50名※要予約（電話申込受付中☎21-4141）

ともに東京藝術大学で学び、留学先のヨーロッパで知り合った夫婦。札幌を中心に、ソロコンサート、時にはデュオにより意欲的な演奏活動を展開。今回は本格的なクラシック音楽をお楽しみください。

### ■土曜サロン

世界のグレートアーティスト(18)「セザンヌ 近代絵画の先駆者」

日時：12月4日(土)14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話し：柴 勤（館長）

おとなの手しごと(8)「ステンシルでオーナメント」

日時：12月18日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員） 定員：10名※要予約

手軽にできる画材でステンシルに挑戦します。できあがったらオーナメントとして飾れます。

京都逍遙(6)「東山を仰ぐ～洛東1～」

日時：12月25日(土)14時～15時20分 会場：映像ルーム（無料）

お話し：柴 勤（館長）

### ■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑰・⑱」

日時：⑰12月10日(金) ⑱12月24日(金) 各18時～19時

会場：映像ルーム（無料） お話し：柴 勤（館長） 定員：5名程度※要予約

## ★第14回「ふるさとを描こう」絵画コンクール入賞者（町内分、敬称略）

ふるさと賞／ 在川 翔太（俱知安小1年） 千田 菜々（北陽小2年） 中谷 心晴（北陽小3年）  
タパ スピサ（北陽小4年） 川本 悠真（北陽小4年） 水口 海（北陽小4年）  
高橋 夏緒（北陽小5年） 今井 玲奈（北陽小5年） 荒木 柊（東小6年）

学 校 賞／北陽小学校



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

俱知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

12月の休館日 毎週火曜日、

31日～1月5日(年末年始休館)

## アール・ブリュットは生の芸術

私は絵を見るのが大好きなので、美術館の学芸員を一生の仕事としました。今でも時間を見つけては、ひたすらギャラリー巡りをしています。制作したご本人がいれば、話し込むことも珍しくありません。

一応はプロですから、美術に関する知識だけはありません。ただそれが通用しないような、純粋な気持ちから生まれる作品に出会うこともあります。止むに止まれず筆をとる、そうした作品は、得てして直接心に訴えかけ、響いてくるものです。

最近、俱知安町の駅前で開催された「ニセコ アール・ブリュット展」も、そんな気持ちにさせてくれた小粒でもピリリと辛い刺激的な展覧会でした。

館 長 柴 勤

◎入賞作品は町 HP でご覧いただけます

